

**第三者意見**  
**万県 - 梁平高速道路建設事業**

中華人民共和国  
清華大学交通研究所  
所長  
陸 化普

**項目：妥当性**

中国においては沿海部と内陸部の経済格差が大きい。上海から成都に至る高速道路の開通によって、人と物資の流通を促進させることが期待でき、格差是正の一助となる。本事業は、その重要な路線の一部に含まれ、特に鉄道及び空港のない区間を含んでおり、中国の高速道路建設において重要な区間である。

万県 - 梁平高速道路を含む交通システムの整備などにより、重慶市の経済発展は加速している。重慶市では 2006 年の GDP がすでに 3,486 億元となり、前年に比べ、12.2%増加している。永住人口で計算した場合、重慶市の一人当たりの GDP は 12,437 元に達し、前年に比べ、11.9%の増加となる。また、市の地方財政収入は 529.46 億元に達し、前年に比べ 30.5%増加し、そのうち一般の財政収入は 317.73 億元であり、前年に比べ 23.7%増加している。これは財政収入全体の 60 パーセントを占める。重慶市の主な経済指標は、中国の西部 12 省（或いは自治区）において、すべて上位 5 位以内に位置する。

万県 - 梁平高速道路の建設は、調和の取れた社会の構築へ寄与すると考えられる。重慶市は多民族からなる直轄市であり、民族構成は、漢民族が中心となるものの、土家族、苗族、回族、満族などの 49 の少数民族から成る。少数民族の総人口は 175 万人であり、その中で土家族の人口は最も多く、113 万人である。重慶市の総人口は 3144.23 万人であるので、少数民族が総人口に占める割合は 55.6%となる。少数民族の多種多様な民俗文化と風習は重慶市の貴重な観光資源になっており、交通インフラの発達は観光業にとっても不可欠である。

**項目：インパクト**

一般的に、交通が活発になると、交通事故といった負のインパクトも増加するが、中国では徹底した交通ルールの指導が義務づけられており、本事業の対象地域でも指導は徹底され、交通量の増大に比べると事故件数は増えていなかった。また、事業による正のインパクトとしては、交通の便利さから、人、物の交流が増加し、地域住民へさまざまな機会をもたらしている。

万県 - 梁平高速道路が開通してから、同区間における交通量 1 万台当りの死亡事故数の推移は、2004 年では 6.3（人/10,000 台）であったが、2005 年には 3.7、さらに 2006 年には 0 と、減少傾向にあり、また、同値は 2006 年における全国平均値の 6.2 を大幅に下まわっている。

以上より、本事業で建設した道路は、交通事故等といった負のインパクトに比べ、地域住民への正のインパクトが大きいと言える。